



シラバス参照

タイトル「**2015年度 教養科目シラバス**」、フォルダ「**2015年度 教養科目シラバス-2015年度「わかやま」学**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	景観と日本人		
担当教員	坪井 恒彦		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年		
科目名（英語表記）	The Experience of Landscape and Japanese		
授業の概要・ねらい	<p>景観とは、ある空間の広がりの中でさまざまな要素が有機的につながり、一定のまとまった像として主体である人間に認知されるものと定義される。わが国では19世紀末の志賀重昂による『日本風景論』以来、地理学や観光学など、いくつかの立場で論じられてきた。しかし、近年の景観をめぐる訴訟などでしばしば取りざたされる「住民の景観権」への国民的な理解は進んでいない。本当に守られるべき「歴史的景観」「文化的景観」とは何か。本講座では、そんな景観を認知する際に基軸となる日本人の精神世界を様々な視点から考察していくことで、景観の持つ本来の意味を問い直したい。例えば、<象徴化された景観>とも言える「庭（二八）」の深層をたずねてみると、そこに日本人が認知する景観へのヒントが見えてくる。</p>		
授業計画	<p>(各回、調整を必要とする場合もあります)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「風景と景観と観光」 2 「景観論の歩みとジャーナリズム」 3 「住民の景観権と裁判」 4 「文化的景観と歴史的景観」 5 「縄文人の<二八>と沖縄のマキョ」 6 「弥生～邪馬台国時代の<神奈備山型祭祀>」 7 「古墳時代首長層の浄水祭祀の現場」 8 「飛鳥京の石と水の宮殿」 9 「熊野本宮と伊勢神宮の<ユニハ>」 10 「寝殿造りの南池としての<神泉>」 11 「極楽浄土を表現する庭」 12 「<枯山水>の由来」 13 「茶庭（茶室）の登場」 14 「大自然を庭とする思想」 15 「回遊庭園の構造」 		
到達目標	観光学・地域再生学の隣接分野としての景観論を理解し、応用する能力を養成する。そこで培われた各自の考え方、意見や主張を的確な文章で表現し、読み手を説得しうる能力をも磨く。		
成績評価の方法	期末試験70%+出席点30%		
教科書	『庭と日本人』（上田篤著・新潮新書246）ISBN978-4-10-610246-2		
参考書・参考文献	『癒しの地形学』（藤原成一著・法蔵館）ISBN4-8318-7240-7		
履修上の注意・メッセージ	授業中のレポート作成指導など演習的な要素も加えたいと考えており、必ず毎回真面目に出席できるという自信のある学生諸君の参加を求めます。5回以上無断欠席した場合は評価しません。		
履修する上で必要な事項			
受講を推奨する関連科目			
授業時間外学習についての指示	上記授業計画に沿って準備学習と復習を行うこと。関連する課題について自ら問題を提起して調査・考察を進め、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。		

その他連絡事項



Copyright (c) 2008 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.